

## 交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	取り組み状況(R5)	これまでの取り組み状況(H29～R5)	累積 評価
1 安全で信頼される 公共交通	(1) 安全性の向上 (P31)	① 施設の計画的な改良・更新	軌道改良工事(L=45.4m)および軌道舗装改良工事(L=115.0m)を計画どおりに実施したほか、十字街交差点改良工事に伴う詳細設計委託業務、函館駅前～松風町間電車線路改良工事等実施しました。	電車停留場安全地帯へのスロープ設置、電路の改良、軌道の改良、軌道分岐器の更新などを実施しました。 (軌道改良延長 L=1,136.1m/7年)	B
		② 運転技能向上への取り組み推進	添乗指導や事故防止研修を実施したほか、新たに冬期運転講習を実施しました。	立哨、添乗指導や事故防止研修を実施するなど、輸送の安全を確保するための取り組みを進めました。	B
		③ 安全管理体制の強化	安全の確保をより確実なものとするため、9月に臨時内部監査を実施しました。	PDCAサイクルに則り、安全方針や安全重点施策を策定、訓練や研修の定期的な実施、内部監査による確認など、運輸安全マネジメントを推進しました。	B
		④ 軌道内電車優先運行についての啓発強化	啓発リーフレットを市内自動車学校や街頭でドライバーに配布したほか(合計1,250枚)、企業局だより・ラジオによる広報を実施しました。	関係機関への啓発リーフレット配布や広報活動を実施するなど、軌道内電車優先運行についての啓発に努めました。	B
2 便利で快適な 輸送サービスの提供	(1) 快適性の向上 (P33)	① 車両の改良・更新	1両の超低床車(台車部分)を購入し、2両の車体改良を実施しました。	2両の超低床車を購入し、14両の車体改良を実施しました。	B
		② 職員の接遇マナーの向上	国立視力障害センターから外部講師を招いて、車いすを使用する身体障がい者への乗降支援の研修を、実車を用いて実施しました。	外部講師を招いて接遇研修を実施したほか、インバウンド接客研修会に参加するなど、接遇マナーの向上に向けた取り組みを進めました。	B
	(2) 利便性の向上 (P35)	① 情報発信の強化	ロケーションシステムを導入し、平常時の運行状況のほか、イベント仕様電車の運行情報を発信するなど、利便性の向上を図りました。	ロケーションシステムや電車内の液晶ディスプレイを利用した情報発信を実施したほか、車内放送の多言語化の充実やゲーグルマップで目的地への経路検索等を可能とするなど、情報発信の強化に努めました。	A
		② ICカードシステムの活用	ICカードデータを活用し、利用動向調査を実施しました。	IC定期券の運用を開始したほか、ICデータを活用した利用動向分析を実施し、更なる利便性の向上を図りました。 (ICカード車内利用率 74%)	B
		③ 乗客需要に見合った適切な運行本数の確保	観光客の増加に対し、GW期間中に特別ダイヤ(日中6分間隔)を実施したほか、夏季繁忙期には、所要時分を見直したダイヤを実施しました。	乗客需要の調査や状況に応じた増車運行を実施したほか、令和2年度に日中7分間隔、さらに令和4年度には日中8分間隔とするダイヤ改正を実施するなど、適切な運行体制の確保に努めました。	B
④ 料金体系についての調査研究	通学者および高齢者の利用促進に繋がる制度の検討や幼児に対する乗車料金の無料人数の拡大について検討しました。	ICカードデータを利用した電車・バス間の乗継件数の調査および検証を行いました。	B		
⑤ 交通機関相互の連携強化	イベント開催時の運行について、路線バスと引き続き連携を図りました。	路線バスと連携しICAS-nimocaカードを導入し、乗り継ぎ割引制度を拡充しました。	B		

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

- : 評価なし

## 交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	取り組み状況(R5)	これまでの取り組み状況(H29～R5)	累積 評価
3 まちや地域への貢献	(1) 地域社会への 貢献 (P36)	① 地域を支える取り組みの 推進	地域のイベントなどに対応するため、増車運行や立哨を行いました。また、車体広告のガイドラインについて見直しに向けた協議を継続して行いました。	地域のイベントなどに対応した増車運行や立哨を実施したほか、中心市街地活性化事業により、松風町、千代台の停留場を改良するなど地域を支える取り組みを進めました。また、策定から一定期間経過した車体広告のガイドラインの見直しに着手し、函館の歴史的な景観に配慮した取り組みを進めました。	B
		② 人にやさしい公共交通へ 向けた取り組みの推進	1両の超低床車(台車部分)を購入しました。	超低床車を導入したほか、安全地帯へのスロープ設置、停留場をバリアフリー対応に改良するなど、人にやさしい公共交通へ向けた取り組みを進めました。	B
		③ 環境負荷の低減	エネルギー効率が良い超低床車(台車部分)を購入しました。	エネルギー効率の良い車両を導入したほか、ノーマイカーデーなどの啓発活動を実施するなど、環境負荷の低減に努めました。	A
4 経営基盤の強化	(1) 収益力の向上 (P37)	① 市電の利用促進	路面電車開業110周年記念事業としてイベントを開催したほか、受験生やご家族を対象に、合格祈願の御守り等を営業車両内で配布する「受験生応援企画」を実施しました。	旅行代理店への営業を行ったほか、車内放送の多言語化の拡充や利用促進に係るチラシを各戸に配付しました。また、スマホ型乗車券の販売やイベントの実施など、利用促進に向けた取り組みを進めました。	A
		② 広告料収入の確保	車体広告料金について、令和7年4月1日以後の広告取扱分から料金を見直す検討をしました。	広告料金について車体広告の割引制度の見直しを行ったほか、意匠許諾を行うなど、収入の確保とイメージアップに向けた取り組みを進めました。	B
	(2) 経営の効率化 (P38)	① コスト削減の取り組みの 推進	過年度から実施している新たな防錆塗料の試験塗布の経過観察や安全基準を満たす範囲での車両検査周期延伸に向けて試行しました。	新たな防錆塗料の試験塗布や車両検査周期延伸のための試行など、コスト削減の取り組みを進めました。	B
		② 効率的な組織づくり	交通部事業課および施設課における職員数を見直しました。	他都市の民間への委託内容を調査したほか、各課の業務分析の実施など、効率的な組織体制の構築に努めました。	B

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

— : 評価なし